２０２０年度事業報告書

自　２０２０年 ４月　 １日
至　２０２１年 ３月 ３１日

＜目的及び事業＞　＊　定款　第３条・第４条より

（目的）
第３条　この法人は、優秀でありながら経済的理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等の人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。
（事業）
第４条　この法人は、第３条の目的を達成するため、次の事業を行う。
（１）日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付並びに奨学生に対する指導・助言
（２）育英に関する調査研究・情報提供事業
（３）大学生等の人材育成活動助成事業
（４）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

Ⅰ．　事業の状況

１．大学生への奨学金支給事業　＜公益事業 1＞

（１）大学奨学生の採用人数（2020 年 4 月入学）と奨学金給付

2019 年に予約採用した 92 名のうち 73 名（現役合格率 79.3%）および 2018 年予約採用の一浪生 17 名のうち 15 名が、2020 年 4 月に当財団指定大学への入学を果たし、計 88 名が大学奨学生として正式採用となった。
（男性 45 名・女性 43 名／文系 47 名・理系 38 名・芸術系 3 名／国立 57 名・公立 6 名・私立 25 名）

＜大学奨学生数の採用内訳と合計＞（採用時の数値のため学年毎の在学者数と異なる）

	一般枠	芸術枠	震災支援枠	合計
2017 年度採用／大学４年生	67 名	8 名	14 名	89 名
2018 年度採用／大学３年生	71 名	6 名	－	77 名
2019 年度採用／大学２年生	90 名	2 名	－	92 名
2020 年度採用／大学１年生	88 名		－	88 名
大学１～４年生合計	332 名		14 名	346 名

※震災支援枠は 2017 年度採用をもって終了した（45 名の上限枠に到達）。
※2017 年度採用から理系の学部（4 年制）も対象とした。
※2020 年度採用の募集から一般枠と芸術枠を統合した。
※2020 年度大学奨学生数は、2016 年度採用 5 名を加え、2018 年度採用の辞退 1 名により総数 350 名。

なお、2020 年度の大学奨学生への奨学金給付金額（入学一時金・受験等助成金・特別奨学金を含む）は、3 億 5,738 万円となった。

（２）海外留学・活動支援制度について

奨学生が広い視野を持ち、将来、グローバルに活躍できる人材として成長する一助となることを目的に 2014 年度に支援制度を開始。
2020 年度 4 月より奨学生の留学経験の促進を図るべく、以下の制度の改訂を行った。
・長期留学機会を支援するため、大学生の在学中の支給上限金額を 100 万円から 150 万円に増額するとともに、1 回あたりの支給上限金額を 50 万円から 150 万円に引き上げる。
・奨学金の給付期間の 4 年を過ぎても、大学に在籍して留学するケースなど、奨学生の就学状況の多様化に柔軟に対応できるよう、制度の利用可能期間を就学期間とする。
・留学時により充実した生活を図れるよう、活動費を 5 万円（1 ヶ月）から 8 万円（1 ヶ月）に増額するとともに、留学期間に柔軟に対応するために、1 ヶ月を超える期間に対して 1 週間単位で 2 万円ずつ支給する運用を行う。

	改訂前	改訂後（現行）
在学中の支給上限金額	大学生（4 年間）：100 万円 大学院生（2 年間）：50 万円	大学生（就学期間中通算）：150 万円 大学院生（就学期間中通算）：50 万円
1 回あたりの支給上限金額	50 万円	150 万円
渡航費	アジア地域 5 万円 それ以外：10 万円	（現行どおり）
活動費	1 ヶ月あたり 5 万円 ※1 ヶ月に満たない短期留学の場合は 1 ヶ月分を支給 ※1 ヶ月を超える留学で、以降 1 ヶ月に満たない月は未支給	1 ヶ月あたり 8 万円 ※1 ヶ月に満たない短期留学の場合は 5 万円を支給 ※1 ヶ月を超える留学は、最初の 1 ヶ月以降は、1 週間あたり 2 万円を支給
その他	奨学金給付期間のみが対象。	奨学金給付期間の 4 年間が経過しても、在学中は奨学生として留学支援を継続。

しかし、2020 年 2 月以降の新型コロナ感染症の世界的な大流行により、海外渡航が制限され多くの大学で海外留学が休止されたことから、2020 年度の利用者は大幅に減少し、延べ２名で費用は 88 万円であった。

なお、海外渡航制限が継続している現状に鑑み、2021 年度よりオンライン留学に対しても支援できるよう制度を拡充した。

（３）大学貸与奨学生について

大学貸与奨学生は、2010 年度に募集・採用が終了し、2015 年度から貸与奨学金の支給はしていない。1965 年度奨学生採用以来、貸与奨学金の累計は 26 億 8,171 万円に対して、貸与奨学金残額は 2021 年 3 月末で 108,663,780 円（返還残奨学生 205 名）。

２．大学院生への奨学金給付事業　＜公益事業 1＞

（１）大学院奨学生の採用人数（2020 年 4 月入学）と奨学金給付

大学院進学を予定している当財団大学奨学生の中から、奨学生選考委員による書類選考および面接選考を経て、16 名を内定とし、その後の試験の結果、2020 年 4 月に大学院に進学した 13 名を正式採用した（内定者のうち 1 名は早期進学により 2019 年度採用へ、2 名が就職で辞退）。その結果、2019 年度採用の 9 名と合わせて 22 名となった。

※2013 年度採用から制度変更を行い、対象者を当財団の大学奨学生に限定している。

なお、2020 年度の大学院奨学生への奨学金給付金額（特別奨学金を含む）は、2,092 万円となった。

（２）海外留学・活動支援制度

大学奨学生同様にコロナ禍の影響により、海外渡航が制限された結果、2020 年度の利用者は１名で費用は 50 万円であった。

３．大学奨学生および大学院奨学生への特別奨学金の給付＜公益事業１＞

2020 年 4 月半ばに、コロナ禍の状況における奨学生の生活状況について緊急アンケート（対象：大学２年生～大学院２年生　284 名回答／期間：4 月 27 日～5 月 6 日）を実施した。調査の結果、アルバイトや仕送りの減少が生じている一方で、オンライン授業に対応するための PC 購入等の費用負担が必要になっている等の状況がわかり、早急に学資支援を行う必要があると判断し、5 月 15 日(金)に全奨学生 372 名（大学生 350 名､大学院生 22 名）（休学中のもの含む）に対して、一人あたり 10 万円の特別奨学金を支給した。

＜2020 年度　奨学金等支給額＞

	大学生	大学院生	計
奨学金	28,588 万円	1,872 万円	30,460 万円
特別奨学金（コロナ禍対応）	3,500 万円	220 万円	3,720 万円
入学一時金・受験等助成金	3,650 万円	－	3,650 万円
海外留学・活動支援金	88 万円	50 万円	138 万円
計	35,826 万円	2,142 万円	37,968 万円

４．奨学生の研修・交流会事業　＜公益事業 1＞

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、例年は一泊二日の合宿型セミナーのところ、すべてオンラインによって実施した。これらのセミナーは奨学生の研修と交流を目的とするもので、奨学生相互の研鑽とともに、オンライン懇親会による親睦が図られた。

（１） 大学院生セミナーの実施

＜実施日＞　2020 年 8 月 21 日(金)、24 日(月)
＜講　師＞　i-school　エグゼクティブ・ディレクター　堀井秀之氏
＜研修テーマ＞「With/After コロナ時代の社会ニーズにこたえるイノベーション」
＜目　的＞　With/After コロナ時代のニーズ・テクノロジーを模索し、そこから導出できるアイディアを提示するワークを通じて、イノベーションのためのアイディア発想の創造的プロセスを学ぶ。
＜参加者＞合計 14 名（うち大学院進学内定学部生２名（大学４年生））

＜セミナー・アンケート結果＞（回答総数：12 名）
［満足度］
・満足　58.3%（7 名）　・やや満足　33.3%（4 名）　・普通　8.3%（1 名）
［実施方法］
・オンラインがよい＋どちらかといえばオンラインがよい　16.6%（2 名）
・どちらとも言えない　16.6%（2 名）
・オフラインがよい＋どちらかといえばオフラインがよい　66.7%（8 名）

（２） 大学３年生セミナーの実施

＜実施日＞　2020 年 8 月 22 日(土)、23 日(日)、26 日(水)
※３グループに分けて各１日ずつ計３日間実施
＜講　師＞我究館 館長 熊谷 智宏氏、田中 杏奈氏
＜研修テーマ＞「自己分析とキャリア研修」
＜目　的＞　大学３年生がこれから迎える就活や今後の進路に向けて自己分析をはじめとする自分自身のキャリアデザインについて考えるセミナー。
＜参加者＞　大学３年生 72 名

＜セミナー・アンケート結果＞（回答総数：53 名）
［満足度］
・満足　69.8%（37 名）　・やや満足　24.5%（13 名）　・普通　5.7%（3 名）

［実施方法］
・オンラインがよい＋どちらかといえばオンラインがよい　18.9%（10 名）
・どちらとも言えない　18.9%（10 名）
・オフラインがよい＋どちらかといえばオフラインがよい　62.3%（33 名）

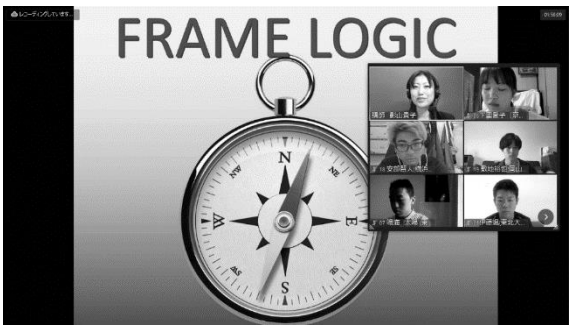
（３） 大学２年生セミナーの実施

＜実施日＞　2020 年 9 月 20 日(日)、10 月 17 日(土)
＜講　師＞　（株）チーム・ボックス　中竹 竜二氏、阪本 豪氏
＜研修テーマ＞「実践を通して学ぶ、未来を創る目標設定スキル」
＜目　的＞　リーダーに必要なスキル（目標設定や振り返りのスキル）について、理論のインプットとワークを中心に研修を行い、目標を掲げて行動するスキルを身に付ける。
＜参加者＞大学２年生 83 名

＜セミナー満足度　アンケート結果＞（回答総数：59 名）
［満足度］
・満足　22.0%（13 名）　・やや満足　55･9%（33 名）
・普通　16.9%（10 名）　・やや不満　5.1%（3 名）
［実施方法］
・オンラインがよい＋どちらかといえばオンラインがよい　11.9%%（7 名）
・どちらとも言えない　30.5%（18 名）
・オフラインがよい＋どちらかといえばオフラインがよい　57.6%%（34 名）

（４） 大学１年生セミナーの実施

＜実施日＞　2020 年 9 月 19 日(土)～20 日(日)
＜講　師＞　（株）アイディア社　ダーキー氏、西田 真也氏、影山 貴子氏
＜研修テーマ＞「実践型ロジカルコミュニケーション&プレゼンテーション研修」
＜目　的＞的確に伝えるために必要なコミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルを学ぶ。また初めて出会う奨学生同士でグループワーク行うことで奨学生同士が親睦を図り、刺激を受け合うことによる成長機会とする。
＜参加者＞　大学１年生 87 名



＜セミナー満足度　アンケート結果＞（回答総数：70 名）
［満足度］
・満足　68.6%（48 名）　・やや満足　30.0%（21 名）　・普通　1.4%（1 名）
［実施方法］
・オンラインがよい＋どちらかといえばオンラインがよい　8.6%（6 名）
・どちらとも言えない　20.0%（14 名）
・オフラインがよい＋どちらかといえばオフラインがよい　71.4%（50 名）

（５）「奨学生の集い２０２０」の開催を中止

2020 年 11 月 14 日(土)に開催予定の「奨学生の集い２０２０」は、300 名以上が集う飲食を伴う会合であり、コロナ禍における感染防止策の徹底が困難と判断し、中止とした。

（６）修了生交流会の実施

2019 年度卒業・修了の大学奨学生と大学院奨学生を対象とした修了生交流会２０２０は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、2020 年 9 月に延期して開催する予定であったが、コロナ禍の長期化により再延期とし、2020 年度卒業・修了の大学奨学生と大学院奨学生と合同で、2021 年 3 月 13 日（土）にオンラインにて開催した。
当財団の選考委員など来賓や OB・OG によるメッセージやグループに分かれたコミュニケーションセッションなどで交流を図った。
＜参加者＞2019 年度卒業・修了者　43 名、2020 年度卒業・修了者　62 名、
OB・OG　15 名

５．育英に関する調査研究・情報提供事業　＜公益事業１＞

（１） 会報誌「ＩＫＵＥＩ ＮＥＷＳ」の発行

奨学生や高等教育関係者への有益な情報提供を目的に、会報誌「IKUEI NEWS」を４回（4月、7 月、10 月、1 月）発行した。また、７月号では、奨学生を対象としたコロナ禍における意識や行動についての緊急アンケート調査の結果を掲載するとともに、別冊として「コロナ禍に遭遇した大学生たちの心と行動」を発行した。

＜配布先＞　奨学生（OB、OG 含む）、大学関係（教育研究者、学長室、学生部、広報部）、全国の図書館、教育研究機関など

＜発行部数＞各号約 4,000 部配布

2020 年度の年間を通じた企画テーマ：「私たちのブレークスルー」

	発行月	特集テーマ	取材大学
Vol.90	2020 年 4 月	学びの境界を取り払え	東北大学　他
Vol.91	2020 年 7 月	“人間力”を磨け ※別冊「コロナ禍に遭遇した大学生たちの心と行動」	―※
Vol.92	2020 年 10 月	自分の道を見つけ出せ	―※
Vol.93	2021 年 1 月	“はたらく”を見極めろ	―※

※Vol.91 、Vol.92、Vol.93 については、コロナ禍によって大学への取材は休止。

（２）「リーダー育英塾」のオンラインセミナー開催

2018 年より「トランジション（高大社連携）を意識した教育改革」の実践を担う次世代リーダーを育成することを目的にスタートしたワークショップ「リーダー育英塾」については、コロナ禍における感染リスクの観点から中止し、オンラインセミナー形式での特別篇として「コロナ禍を乗り越えるスクールリーダーシップ～いかに学びを継続させるか～」を開催した。

＜実施日＞　2020 年 8 月 15 日(土)、16 日(日)
＜対象者＞　中学校・高等学校・大学の教職員および教育関係者等

＜参加人数＞　約 300 名

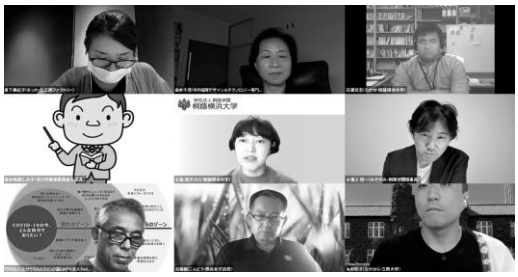
※7 月下旬より電通育英会ホームページにて募集（参加料無料）を行い、先着順で参加者を決定。

＜講師・事例紹介＞

溝上 慎一（学校法人桐蔭学園 理事長／桐蔭横浜大学 学長 教授）、中原 淳（立教大学 経営学部 教授）、森 朋子（桐蔭横浜大学 副学長）、北村 恭崇（大阪高等学校 教員）

＜目　的＞

コロナ禍で学校教育を継続させる事例からの学びを全国の教職員と情報共有する。



なお、「リーダー育英塾」の２年間の成果と高大社連携による人材育成の情報共有の場として、10 月 4 日(日)に電通ホールで開催を予定していた「リーダー育英塾カンファレンス２０２０」は、コロナ禍によって開催を中止した。

（３）調査研究

2020 年度は、以下２件の調査を実施。

1　桐蔭学園（溝上チーム）と共同で、「高校生・大学生・成人を対象とした、学校から仕事・社会へのトランジション調査研究」を実施。

2　立教大学（中原研究室）と共同で、トランジションに関して「リーダーシップ教育の効果性の縦断研究・追跡調査」を実施。

上記の調査結果については、本年夏に開催する「リーダー育英塾」にて活用予定。

＜2020 年度　奨学金以外の事業別　活動支出額＞

奨学生の集い	大学院生・大学 3 年生セミナー	大学 1・2 年生セミナー	修了生交流会	IKUEI NEWS	リーダー育英塾	調査研究	合計
－	395 万円	559 万円	202 万円	3,370 万円	33 万円	1,614 万円	6,173 万円

(注)「奨学生の集い」は中止としたため、支出は発生していない。

６．大学生等を対象とした人材育成活動助成事業　＜公益事業２＞

（１）2020 年度助成団体の募集・採用・フォローアップ

2020 年度は、以下の項目について変更して募集した。

・助成対象となる団体の主たる事務所（拠点）のある地域を、関東地区１都３県に加えて、大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県の関西地区２府２県に拡大。
・助成対象となる事業・プログラムとして、未来を担う次世代リーダーを育成する活動を対象。

募集の結果、40 件の応募があり、2020 年 2 月に助成団体選考委員会にて書類選考及び面接選考を行い、12 団体を採択した。各団体に対して、100 万円を上限に助成を行った。
各団体の助成対象活動に関しては、フォローアップ（コロナ禍における計画の中断、変更等の進捗状況を月に一度把握）とともに 9 月に中間報告書を事務局に提出してもらい、助成団体選考委員による確認を実施した。
また、コロナ禍の影響で当初の計画どおりに活動ができなかった6団体に対して、2021年度に継続助成(繰越助成額 3,328,000 円)を行うこととした。

2020 年度助成団体（12 団体）

団体名	助成対象活動
NPO 法人 アントレプレナーシップ開発センター	アントレプレナーシップ涵養の高校生の国際競技 「グローバル・エンタプライズ・チャレンジ」
一般社団法人 HLAB（エイチラボ）	HLAB TOKYO 2020 SUMMER SCHOOL 高校生/大学生/海外大学生による、リベラル・アーツ・コンセプトの合宿型サマースクール
一般社団法人 学生自主研究推進機構	学生の自主研究発表会 Jamboree サイエンスをテーマにした 研究室や大学を超えた研究の場
学生団体 GEIL	社会課題を学び政策を提案する 学生のための政策立案コンテスト 2020
関西大学ボランティアセンター	琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来 ～滋賀県琵琶湖岸での外来植物駆除活動及び清掃活動～
NPO 法人 CLACK	貧困家庭の高校生へのプログラミング教育×キャリア教育を通じた人材育成
グローバルクリエイティブ リーダーズソサエティ（GCLS）	第 1 回 GCLS プレゼンコンペティションの開催 ICT を活用した社会課題の解決
NPO 法人 研究実験施設・環境安全教育研究会	高校生による環境安全とリスクに関する自主研究活動支援事業(化学物質、生物･バイオ、環境)
一般財団法人 出版文化産業振興財団	WATERRAS BOOK FES 2020 「本」を介した学生と地域とのコミュニティ

中央大学ボランティアセンター	東日本・熊本・真備の経験を新たな被災地に活かす「学生ボランティア世代間継承」の仕組みづくり
平野みんな食堂ネットワーク	平野みんな食堂パイオニア みんな食堂を拠点とした大学生の学習体験
ワンダリングチャレンジ 神奈川実行委員会	ワンダリングチャレンジ神奈川 2020 台湾発の次世代リーダー輩出のためのプラットフォーム構築

【平野みんな食堂】

【ワンダリングチャレンジ】

（２）2021 年度助成団体の募集・採用

2021 年度の助成団体は、学生を対象とした人材育成を目的として活動などを行う関東地区（東京、神奈川、埼玉、千葉）と関西地区（大阪、京都、兵庫、滋賀）の大学内組織や民間 NPO 団体を主な対象として、「次世代リーダーの育成」に資する活動に対して、年間 10 件（団体）程度、1 件（団体）あたり上限 100 万円までの助成の募集を行った。

＜応募時期＞2020 年 10 月 20 日（火）～12 月 11 日（金）
（円滑な応募受付とコロナ禍への対応策として、今回より財団 HP よりオンライン募集とした。従来の郵送対応は行わなかった。）
＜応募団体数＞45 団体（関東地区 31 件/関西地区 14 件）
＜選考スケジュールと経過＞
2020 年 12 月 21 日（月）財団内事務局選考を経て、2021 年 1 月 29 日（金）助成団体選考委員会（オンライン開催）による選考が行われ、11 団体が通過した。2021 年 2 月 22 日（月）、24 日（水）各団体に対して 3 名から 4 名の選考委員による面接選考（オンライン開催）が行われ、2021 年度助成団体として 11 団体の採用を決定した。

2021年度助成団体（11団体）

団体名	助成対象活動
NPO法人 シェア・マインド	「美味しさで分かち合おう！学生発案のフードチャリティー」（食品ロス削減施策）
NPO法人 アサヒキャンプ	「アサヒキャンプカウンセラーズ」 （人権意識にあふれた心身ともに健康で「生きる力」をもった青少年の育成を図る）
NPO法人 glolab	「みらいチャレンジプログラム」（外国人ルーツの高校生の育成支援）
NPO法人 研究実験施設・環境安全教育研究会*継続	「2021 年度高校生による環境安全とリスクに関する自主研究活動支援事業」
一般社団法人 次世代ロボットエンジニア支援機構	「ロボットコンテストを活用した次世代リーダー育成基盤の定着化と強化」
NPO法人 大学宇宙工学コンソーシアム	「大学生が中高生や一般の方に教える人工衛星ハンズオントレーニング」
NPO法人 地球対話ラボ	「地球対話コーディネーター育成プログラム -インターネットテレビ電話を使用したリモート国際協働プロジェクトを通じた異文化理解と次世代育成-」
日本・イスラエル・パレスチナ学生会議	「日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議」 （政治的事由によって民間交流が断絶されたイスラエル・パレスチナの学生に「対話の機会」を提供する。）
認定NPO法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン	日本全国の学生がリーダーシップスキルを学ぶ「ハビタット・ユース・リーダシップ・トレーニング」
学校法人立命館	「大学・学校の枠を超えて防災・災害復興支援について学び合い、災害時に機動力を発揮できるリーダー・フォロワーを養成するプログラムの開催」
Learning Crisis研究会	「まなキキ・フォスター・プラン：障害児と大学生が紡ぐ学びのナビゲータ」

以上